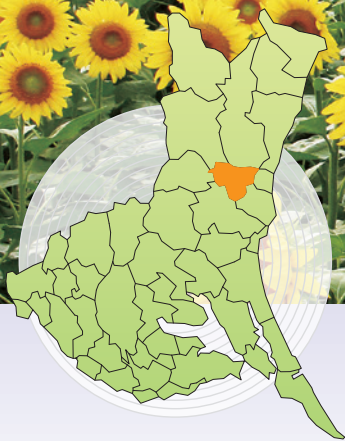


# 第38回 支店長のわがまち紹介

## 茨城県那珂市

「いい那珂暮らし」 いい具合に田舎だからできるいい暮らし

なかひまわりフェスティバル ひまわり迷路 (写真提供：那珂市)



茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第38回は、那珂市です。筑波銀行は、市内に1カ所2カ店の営業店を設置し、那珂市の皆さまと密接な関係を築いています。那珂支店長の鴨志田瑞彦が、那珂市長海野徹氏、副市長宮本俊美氏、企画部長関根芳則氏にお話を伺いました。

### ●那珂市が一番と考えていること、自慢できることはどのようなことでしょうか

本市は茨城県の中央よりやや北寄りに位置し、南側は水戸市に、東側は日立市・ひたちなか市・東海村に、北側は常陸太田市・常陸大宮市に、西側は城里町に隣接し、商業集積地、工業都市に近い利便性の高いまちです。気候にも恵まれて災害も少なく、久慈川と那珂川に挟まれた平坦な那珂台地に田園地帯が広がり、古徳沼や一の関ため池など農業用のため池が多く、そこに白鳥が飛来する自然豊かなまちです。便利な住みよいまちであり、東洋経済新報社の住みよさランキング2015で茨城県内第3位（全国40位）であることに現れています。特に利便性が全国36位と高順位です。

本市には様々な魅力がありますが、特に際立っているものが4点あります。

第1に、量子科学技術研究開発機構那珂核融合研究所にJT-60SA核融合研究設備の建設が進んでいます。核融合エネルギーは、エネルギーの長期的な安定供給と環境問題の克服を両立させる未



古徳沼の白鳥(写真提供：那珂市)

来のエネルギーとして期待されています。また、完成すれば研究者が数百人規模で移入して

くるため、地域の活性化が見込めます。

第2に、那珂市立図書館に、日本初の手のひら認証登録のシステムを導入しています。手ぶらで来ても、手のひらをかざすだけで本が借りられるので、本市では図書館がとても身近な存在です。

第3に、交通環境が非常に良好です。市内にはJR水郡線の駅が9つ、常磐高速自動車道の那珂インターチェンジ、南北に平行して走る3本の国道(6号、118号、349号)があります。鉄道の駅が9つもある市町村は珍しく、本市の利便性を高める要素だと考えています。

第4に、世界一のクラフトビールを醸造する酒造会社があります。この会社は、得られた利益を新たな事業にどんどん回していくことが特長で、市内の農業後継者と組んで耕作放棄地を活用して原料のホップを栽培するなど、本市の活性化に寄与する様々な活動を行っています。

本市の住民は、「利便性のある暮らし」が営める一方で、豊かな自然と田園風景に癒される「ほどよい田舎暮らし」ができます。このイメージを「いい那珂暮らし」というキャッチコピーに込めました。このロゴマークは市内在住のクリエイターにデザインしてもらいました。

### ●今後の展望についてお聞かせください

本市の基幹産業は農業だと考えています。近年、農家も高齢化が進み、後継者不足のため耕作放棄地が問題になっています。平成26年度から



海野市長



宮本副市長



関根部長



鴨志田支店長

「那珂市特産品ブランド認証制度」を実施しており、平成27年度は、農産物として「那珂かぼちゃ」と「那珂パイヤ」を認証しました。那珂かぼちゃは完熟させてから収穫するため、栗のようなほくほくとした食感と濃厚な甘さがギュッと詰まっており、出荷するとすぐ売り切れてしまいます。南国のフルーツとして知られるパイヤですが、那珂パイヤは、露地栽培で実を青いうちに収穫した野菜です。本市はパイヤの露地栽培の北限とされています。酵素がたっぷり含まれた栄養豊富な実をサラダなどに調理して食べます。

ブランド作物を導入することで、本市の農業に新しい流れが出てくることを期待しています。また、ブランド認証は、本市の農産物を使用した加工食品も対象であり、毎年募集して那珂市の特産品を増やし、本市の知名度やイメージを高めていきます。

市の花にもなっているひまわりの栽培は、耕作放棄地活用を目的として始まりました。ひまわりは、花は観賞でき、種子からは油が採れる優れた植物です。那珂総合公園で毎年8月の最終土曜日に行われる「なかひまわりフェスティバル」はすっかり定着しました。また、平成21年に誕生した那珂市商工会のキャラクター「ひまわり大使ナカマロちゃん」も本市をPRしています。

本市の住民の多くは、商業や製造業の盛んな周辺都市で働いており、本市はベッドタウンの役割を担っています。今後の人口減少は避けられませんが、できるだけそのスピードを鈍化させること、世代ごとの人口構成を均衡させられるような政策を実施していきます。

そのため、「那珂市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の実現に向けて、3つの目指す方向を定めて施策を進めます。まず、「市民のしあわせ家



ひまわり大使  
ナカマロちゃん

ひまわり大使ナカマロちゃん  
(提供:那珂市商工会)

族づくりプラン」で、現在本市に住んでいる市民に向けて、子育て、出産に対する政策を厚くし、結婚につながる出会いの場づくりを進めます。また、「ふるさと回帰促進プラン」で、本市出身の人、ふるさと納税等で本市と縁ができた人等に対し、情報発信や受け入れ体制の整備を進め、来訪頻度の増加→二地域居住の促進→最終的には移住へと結び付ける働きかけを行います。そして、「域外市民の増加プラン」で、これまで本市を知らなかった人に向けて様々な認知機会を提供し、将来の移住に向けて段階的に働きかけをしていきます。

このプランを市民と共有し、本市に「住んでよかった」「戻ってよかった」「知ってよかった」と感じてもらえる人を増やし、さらに住みよさを向上させていきます。

この取り組みには、「いい那珂暮らし」のキャッチコピーとロゴをフル活用していきます。



「いい那珂暮らし」ロゴマーク (提供:那珂市)

●筑波銀行に期待することをお聞かせください

筑波銀行は、平成28年10月から本市の指定金融機関となります。それに先がけ、5月には庁舎敷地内に店外ATMが開設され、取扱時間も長く、市民の利便性が向上しました。今後、2つの銀行が3年ごとに本市の指定金融機関を交替で担うこととなり、2行が互いに切磋琢磨することで市民サービスや地域への貢献が向上すると大いに期待しています。

また、6月29日に筑波銀行を含め市内の5金融機関と「定住の支援に関する協定」を締結しました。本市がまち・ひと・しごと創生総合戦略の定住促進の一環として本年度から実施する「子育て世帯等住宅取得助成金交付事業」に関する協定です。これを受け、筑波銀行には、早速7月1日から、那珂支店のみで取り扱う本市専用のローン商品を導入していただきました。

今後、様々な分野で本市と情報を共有し合っ住みよいまちづくりを進めていきたいと考えています。

(文責:筑波総研株式会社 主任研究員 國安 陽子)